

平成23年度 千葉市教育研究会社会科部会 11月例会

◎ 千葉市教育研究会社会科部会研究主題

社会の形成者として主体的に判断し、
行動する力を育てる社会科学習のあり方

◎ 千葉市立幸町第一中学校社会科部会研究主題

一人一人が確かな学力を身につけるための指導法の工夫
～学ぼうとする力、学ぶ力の育成をめざして～

平成23年 11月15日（火）

研究授業

14時00分～14時50分

第3学年1組 教室

研究協議

15時10分～16時30分

本校舎3階 図書室

- 1 挨拶等
- 2 本校の研究の概要について
- 3 授業について
- 4 協議会
- 5 指導・助言
- 6 連絡・その他

千葉市立幸町第一中学校

社会科学習指導案

展開学級	3年1組
展開場所	3年1組教室
授業者	廣澤 文彦

1 単元名（題材名）

ハンバーガーショップの経営者になってみよう

（公民的分野：わたしたちの生活と経済・市場経済と金融）

2 単元の考察（題材の考察）

新しい学習指導要領では、大単元「私たちと経済」において、主として個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、消費活動を中心に経済活動を理解させること、市場経済の基本的な考え方について理解させること、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させること、社会における企業の役割と責任について考えさせること、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせること、財政の役割について考えさせることなどを主なねらいとして示されている。

特に、経済に関する内容の学習については、なぜそのような仕組みがあるのか、どのような役割を果たしているのかということを理解させたり、経済活動が我々の社会生活にあらゆる面で密接なかかわりをもっていることを踏まえたりしながら、今日の経済活動に関する諸問題について着目させ、自ら考えようとする態度が大切であると強調されている。

中項目となる「市場の動きと経済」の主な内容は、①価格の動きと市場経済の基本的な考え方 ②生産や金融などの仕組みや働きの理解 ③社会における企業の役割と責任について考える ④職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考える の4項目となっている。

①では、「市場における価格の決まり方や資源の配分について理解すること」が重要であり、市場の仕組みや経済の用語を理解するだけでなく、人や企業が市場において価格を考慮しつつ何をどれだけ消費・生産するかを選択しており、それに関わって価格には、人的・物的資源を効率よく分配する働きがあることをとらえなければならない。また、貨幣の役割を踏まえて、近年では現金だけではなくICの発達により支払い方法が多様化し、それによって問題も生じていることに気づかせたい。

②の金融は、生徒にとってあまり身近な現象であるとはいえず、抽象的である。家や車を購入するといった高額の買い物をする際のローンの仕組みなどの具体的な事例から、余っているところから不足しているところへの資金を仲介する金融の役割と意義をとらえさせたい。

③では、近年、欠陥商品や偽装問題など企業の公正さを問われていることもあり、そのような具体的な事件・事例を踏まえて、消費者、株主、従業員に対する企業の責任を理解させる必要がある。また、文化や芸術に関する活動など直接的には利益を追求することには結びつかないが、重視されている社会的な貢献についてもとらえさせたい。

④の雇用と労働条件の学習については、近年の雇用形態の多様化やそれに伴う様々な問題の発生をふまえて、生徒自身も将来必ず直面するであろう問題として理解させたい。定職につかずニートやフリーターと呼ばれる状態を選択する若者が存在する一方で、少子化による労働力不足により、外国人の労働力に頼らざるを得ない産業もある。また、企業は、労働者を正規社員として雇用せず、社会保障やその他の面で企業の負担が少ない臨時採用や派遣労働者に頼るという実態も見られるなど、雇用をめぐる情勢は変化している。景気の変動によって、雇用の打ち切りや賃金の引き下げなどの問題も生じている。このような社会的状況の中で、職業の意義や役割について自らの生き方と関連づけて考えるとともに、労働者の権利を保護する仕組みについても歴史分野での学習と関連させながら理解を深めさせたい。

新しい学習指導要領では、言語活動によって、思考力、判断力、表現力の重要性が指摘されている。公民分野においては、「習得した知識、概念や技法を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすること」と

解説書に記されている。

本授業の内容は、本来、「第4章 わたしたちと暮らしの経済」の導入として課題学習を行うことで、学習意欲を高め、経済への興味・関心を持つために単元配列されている。しかし、上述した内容と本校の実態を考慮して、経済の学習について様々な仕組みやその役割と機能を理解したり、それらと社会とのかかわりに気づかせたりしたうえで、身近な経済活動を主体的に考える題材として取り扱った。

3 生徒の実態（省略）

4 単元の目標

- (1) 経済が社会生活と密接なかかわりを持ち、人間生活の維持・向上にとって欠かせないものである経済活動の意義を身近な消費生活を通して理解させる。
- (2) 市場経済の基本的な考え方や現代の生産のしくみのあらし、国や地方公共団体が果たしていることなどについてのあらしを理解させる。
- (3) 身近で具体的な事例を通して、現実の経済に対する関心を持たせ、さらに個人と社会とのかかわりを客観的にとらえ直し、その意味についての理解を深めさせ、経済についての見方や考え方の基礎を育てる。

5 単元の指導（9時間扱い）

- (1) 消費と貯蓄・・・1時間
- (2) 消費者の権利と保護・・・1時間
- (3) 流通のしくみ・・・1時間
- (4) 生産のしくみ・・・1時間
- (5) 市場経済のしくみ・・・1時間
- (6) 市場と価格・・・1時間
- (7) 金融のはたらき・・・1時間
- (8) 働く人たちの生活向上・・・1時間
- (9) ハンバーガーショップの経営者になってみよう・・・1時間（本時）

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 班での話し合いに積極的に参加する。【関心・意欲・態度】
- ② 身近な内容から、生活と経済の関係、経済の選択について、自分の考えをまとめる。【思考判断・表現】

(2) 展開

時配	学習内容と活動	教師の支援	評価など
導入 10分	○学区内にあるマクドナルドを発端に、ハンバーガーショップについて話を進める。 ○ 配付された地図を見て、建物・施設など気がついたことを自由に発表する。 ・ 駅がある。 ・ 住宅地がある。 ・ 図書館がある。 ・ 高校がある。 ・ 大学がある。 ・ 大きな工場がある。	○黒板に地図を提示する。 ○発表しやすいように助言をする。	●黒板の資料 ○地図から土地の利用を確認している。 【興味関心】

